

公益財団法人 渥美国際交流財団  
2025年度春季研究報告会

当日の写真

2026年3月7日（土）





会場の様子



開会挨拶をする渥美直紀理事長（左）と  
総合司会の原田事務局長（右）



2025年度渥美奨学生春季研究報告会がKX-Labと  
オンラインのハイブリットで開催されました。

2025年度渥美奨学金受給者で本年度中に博士号を  
取得する予定の8名が奨学期間中の研究成果を報告し、  
対面やオンラインで参加してくださった指導教官から  
コメントをいただきました。

また、秋に発表予定の2025年度奨学生が司会や  
タイムキーパーを務め、2026年度の奨学生も  
オーディエンスとして参加しました。



タイムキーパーの  
グエンヤトーアイ ユーさん



指導教官の丸山千歌先生（左）と司会の西本和生さん（右、ボストンから参加）



## モダリティ表現と本研究の対象の<sup>③</sup>丁寧さとコミュニケーション

### 要素

・認識モード？モダリティ表現？そ「よう」と「そう」などはどのように違うの？



ドムブロフスカ ファニタ ロクサナさんの発表  
「円滑なコミュニケーションの道具としてのモダリティ・マーカ―  
―認知のモダリティ表現の働きと丁寧さの明確化を日本語とポーランド語の比較分析から」



タイムキーパーの  
許楽さん



指導教官の竹谷悦子先生（左）と司会の李在昶さん（右）



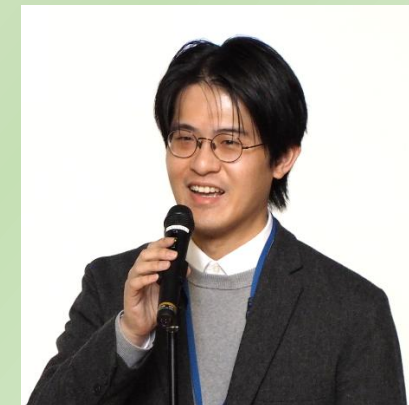
—  
聖母愛児園  
Our Lady of  
Lourdes Baby  
Home



エンヒバイヤル ノミンエルデネさんの発表  
「占領期日本の「子ども」と移動と文化的想像力」



タイムキーパーの  
スパーノ ファビオさん



指導教官の藤井雅子先生と永村 眞先生（左、中）と司会の廖嘉祈さん（右）



## 研究のきっかけ

### 創建当初の醍醐寺

- ・京都府京都市伏見区に貞観16年（874）開創
- ・三論宗（顕宗）と真言宗（密宗）の顕密兼学寺院

### 今日の醍醐寺の姿

- ・現在は「真言宗醍醐派総本山」
- ・事実上、事相の法流の相承や修法中心なイメージ
- ・醍醐寺の研究も政治史もしくは事相よりのものが主流

### ↑原因の一つは

明治維新期の廃仏毀釈・神仏分離令の近代宗教政策の流れで発布された「**一寺一宗**」（一つの寺は一つの教学のみを修学すべき）の強要

### 醍醐寺の文化財調査と醍醐寺文書聖教の歴史

- ・大正3年（1913）正式に文化財調査開始
- ・昭和10年（1935）醍醐寺内に霊宝館（博物館相当施設）設立
- ・昭和52年（1977）「醍醐寺文化財研究所」設立
- ・平成元年（1989）～令和8年（2026）**5期にわたる約95000点の「醍醐寺文書聖教」**の文献史料群を、**独自のデータベースシステム（DB）**を構築・活用し**国宝指定**（DBには約103000点登録）
- ・発表者は2010年～文化財調査参加  
2017年～霊宝館学芸員  
（文化財調査・DB管理・  
国宝指定担当）

姜 錫正さんの発表  
「中・近世醍醐寺における顕密教学史」



タイムキーパーの  
顧嘉晨さん（2024年度ラクーン）



指導教官の若杉浩一先生（左）と司会の岡本聡美さん（右）



路夢瑶さんの発表

「場所と『雰囲気』のインターディフュージョンによる地域芸術活動の形成」



Nezu

### 根津・営みの美術館とは

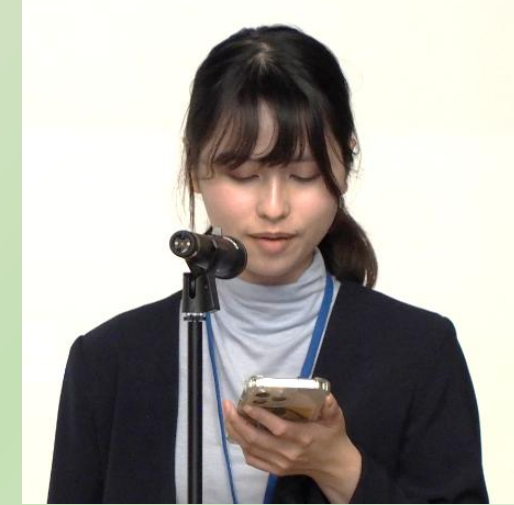
「根津・営みの美術館」は、武蔵野美術大学、地元企業、根津地域が協力して進めている地域芸術活動です。通常の美術館が持つ「保存」「収集」「展示」といった機能を持たず、地域そのものを美術館として捉え、住民の生活や地域の文化そのものを表現する場となっています。このプロジェクトは、地域住民の主体的な参加を促し、彼らと共に作品を作り上げることで、地域全体が「美術館」となることを目指しています。

The Nezu Itonami Neighborhood Art Museum is a community art project led by Musashino Art University, local businesses, and Nezu community. Unlike traditional museums, focusing on "preservation," "collection," and "exhibition," this project views Nezu community itself as a museum. We want to provide a space to express the daily lives and culture of Nezu residents. This project aims to encourage the active participation of residents and, by collaborating with residents to transform the entire community into a "museum."

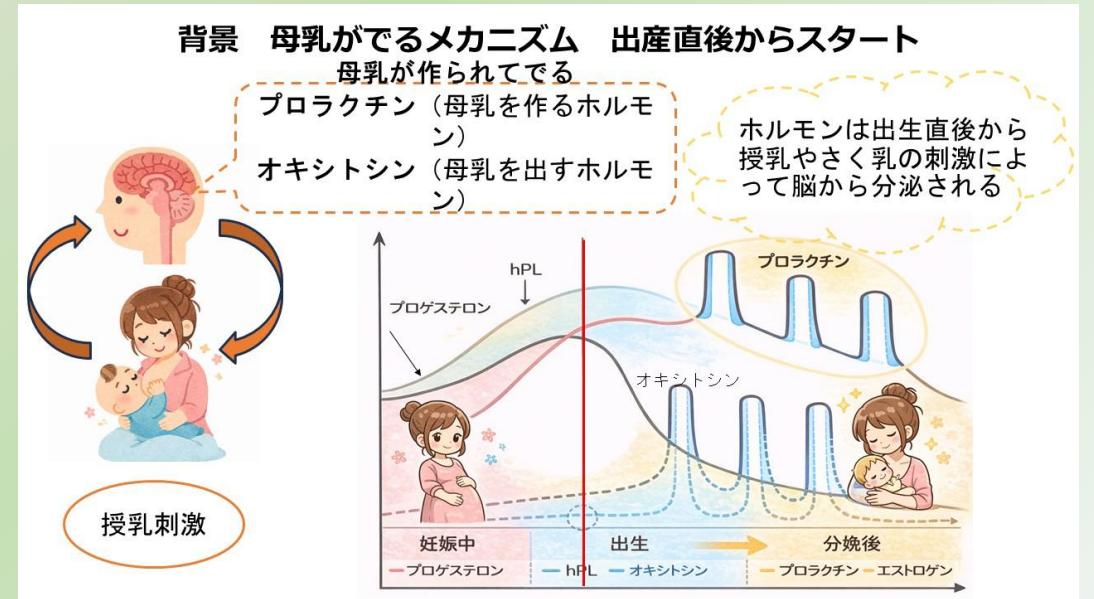




タイムキーパーの  
顧嘉晨さん（2024年度ラクーン）



指導教官の堀内成子先生（左）と司会のグエンヤトーアイユーさん（右）



宮内 愛さんの発表

「帝王切開術後当日から電動さく乳器を用いた乳汁生成支援プログラム：準実験研究」



タイムキーパーの  
李在昶さん



指導教官の深津武馬先生（左）と司会の許楽さん（右）



**なぜゴキブリ? :ゴキブリの細胞内共生を調べる意義**

多種多様なゴキブリ類(約4500種)のほとんどが  
プラタバクテリウムを保持

ゴキブリの菌細胞は脂肪体内に散在  
プラタバクテリウムは菌細胞の細胞室内に充満

**チャバネゴキブリ**  
*Blattella germanica*

♀ ♂

脂肪体 2.5 mm

脂肪体 1 mm

細胞核  
プラタバクテリウム

菌細胞 20 μm

TEM画像 2 μm

500 μm

Noda et al. 2020 Zool Sci; Noda et al. 2024 AEM

野田智仁さんの発表  
「ゴキブリから探る昆虫－微生物共生」



タイムキーパーの  
廖嘉祈さん



指導教官の菅長理恵先生（左）と司会の顧嘉晨さん（右、2024年度ラクーン）



**第二部**

**アラビア語翻訳の分析**

**分析対象**

『桜桃』：アラビア語→シルウィーディー（2021）

**アラビア語構造の特徴**

- 動詞に主語が含まれる
- 主語が明示されないことが多い

→ 人称の揺れを再現することが難しい

**翻訳上の課題**

- 人称の変化をそのまま移せない
- 語りの効果を別の方法で再現する必要

**試み**

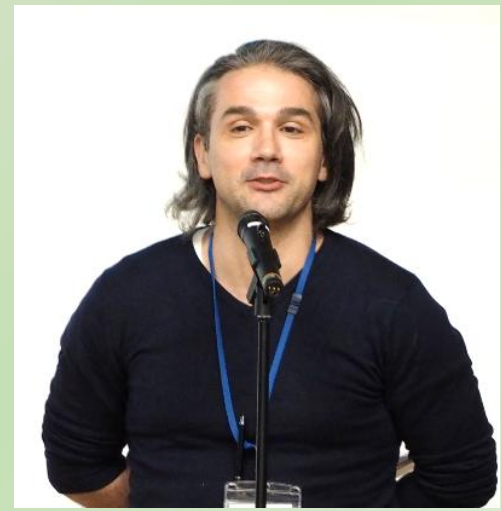
- 『桜桃』の再翻訳
- 文構造やリズムを用いた再構成
- 語りのパフォーマンスの再演

19

シルウィーディー サラ サイド ムハマド エルサイドさんの発表  
「小説という舞台、語りという媒体：  
太宰治文学におけるパフォーマンスと翻訳の(不)可能性」



タイムキーパーの  
岡本聡美さん



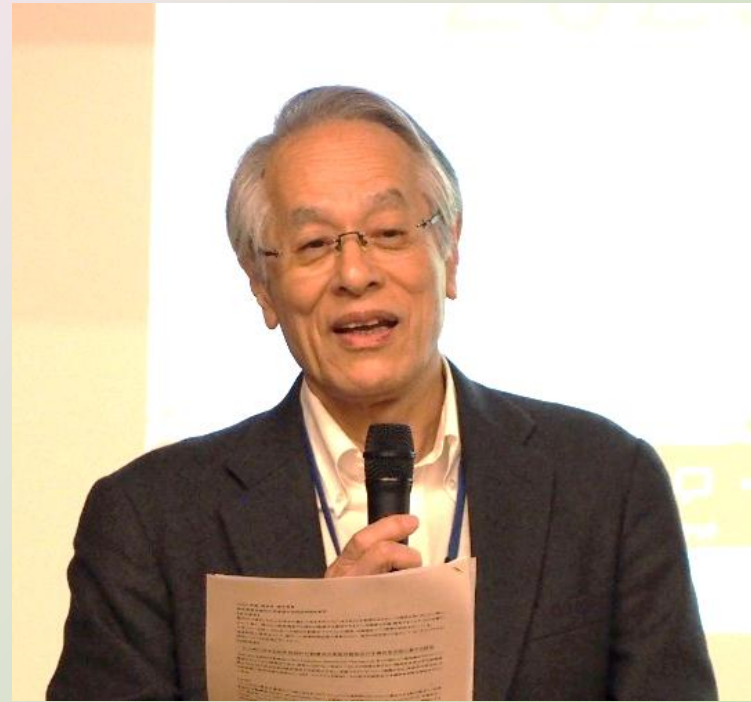
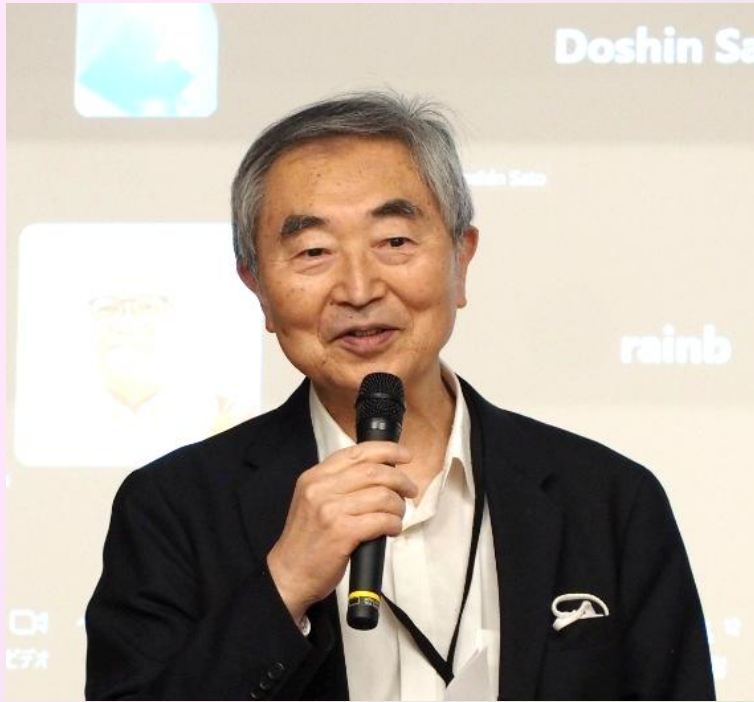
指導教官の久我弘典先生（左）と司会のスパーノ ファビオさん（右）

## 認知行動療法×機械工学



梅本育恵さんの発表

「うつ病に対する効率型認知行動療法の実施可能性及び予備的有効性に資する研究」



財団理事の片岡達治先生（左）、平川均先生（中）の  
総括に続き今西常務理事（右）の閉会挨拶で  
2025年度春季研究報告会は無事に終了しました。





休憩時間も発表や近況について話したり、  
来年度の奨学生と交流したりと和やかな時間になりました。





終了後会場では懇親会が開かれ、  
会話に花が咲きました。

1月に急逝された渥美伊都子顧問のお形見分けもあり、  
それぞれ思い出の品をいただきました。

春の研究報告会に合わせて毎回飾られてきた  
伊都子顧問のお雛様が今年も会場を華やかに彩りました。





最後までオンラインに残ってくださった皆さまと会場で集合写真を撮影しました。

ご参加くださった先生方、  
どうもありがとうございました。  
2025年度奨学生の皆様のご活躍を期待しています！